

平成27年度 入学試験(2月1日実施)

国 語

[40分]

[注意事項]

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないこと。
2. 解答は、すべて解答用紙に記入すること。
3. 問題は1ページ～8ページの合計8ページあります。
ページが抜けていたら、すみやかに手を上げ、監督^{かんとく}の先生に申し出てください。
4. 解答の際、句読点^{ふく}などは字数に含むものとします。

東京農業大学第一高等学校中等部

一 次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に直し、⑥～⑩の傍線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① キカイ体操の大会が行われている。
- ② この道は人のオウライが盛んだ。
- ③ 日記文学とキコウ文学を読んでいる。
- ④ 怪我をしてホウタイを巻かれる。
- ⑤ 時間がないので説明をハブく。
- ⑥ 鬼のような形相をする人。
- ⑦ 流行の衣類を売買する店。
- ⑧ 試合は晴雨に関わらず実施する。
- ⑨ あの大統領はアメリカの元首である。
- ⑩ 春になっても残雪のある山。

二 次の①～⑤の四字熟語の空欄に入る漢字として、最もふさわしいものをア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。また、四字熟語の意味として最もふさわしいものを、後の1～10の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|---------------------|------|-----|-----|-----|------|
| ① 絶 [□] 絶命 | (ア 対 | イ 耐 | ウ 体 | エ 太 | オ 泰) |
| ② 試行錯 [□] | (ア 後 | イ 誤 | ウ 語 | エ 互 | オ 悟) |
| ③ 言語道 [□] | (ア 弾 | イ 断 | ウ 談 | エ 驛 | オ 暖) |
| ④ 枝葉 [□] 節 | (ア 抹 | イ 沫 | ウ 待 | エ 朶 | オ 末) |
| ⑤ 白砂 [□] 松 | (ア 青 | イ 成 | ウ 精 | エ 静 | オ 清) |

- 1 今までに例がなく、これからのないようなこと。
- 2 失敗を繰り返す中で正しい方法を身につけること。
- 3 美しい海岸の景色のこと。
- 4 余韻が長く、か細く残ること。
- 5 いかにもその人らしく生き生きとしていること。
- 6 物事の中から外れた重要な事柄のこと。
- 7 非常に苦しみながら工夫すること。
- 8 逃れようのない差し迫った状態であること。
- 9 悲しみと喜びとが入り交っていること。
- 10 呆れて言葉も出ないほど酷い状態のこと。

三 次の①～⑤の文章の空欄に入ることをわざとして、最もふさわしいものを後のア～コの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を用いてはいけません。

- ① たいして上手ではないが、私の絵でも[□]で展示会の足しにはなるだろう。
 - ② 本番で成功しなかったとしても、もともとは準備しなかったことが原因なのだから[□]で仕方がないことだ。
 - ③ リビングに似合うテーブルクロスを探して何枚も見したが、どれも[□]でいい物が見つからない。
 - ④ 知識だけ得て安心せずに、[□]でやってみることが大切だ。
 - ⑤ [□]とはよく言ったもので、彼は秀才だが体が弱い。
- | | | |
|------------|--------------|--------------|
| ア 身から出たさび | イ 二階から目薬 | ウ 天は二物を与えず |
| エ 三つ子の魂百まで | オ 石橋をたたいて渡る | |
| カ 花より団子 | キ 類は友を呼ぶ | ク 枯れ木も山のにぎわい |
| ケ 習うより慣れる | コ 帯に短したすきに長し | |

四 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

婉曲表現の真意の読み取り方が難しくて悩まされ、何でもつとばかり言ってくれないのかと思う私自身、よく考えてみるとはつきり言えずに婉曲表現を使っている。これは外国人からすれば、まったく理解できないことに違いない。私たち日本人は、なぜか否定的なニュアンスの意思をはつきり伝えることに強い抵抗を感じるのだ。

「いいえ」とか「できません」とか「知りません」といった否定的な言葉を使うのを極力避けようとする日本人のコミュニケーション・スタイルに接したときの戸惑いと発見について、* オフチンニコフはつぎのように表現している。

「A、日本人に電話をかけて『夕方の6時に外人記者クラブで会いたい』といったとする。もし、その日本人がそれに答えて『ええ、6時ですか。ええ、外人記者クラブですか』とまず聞きかえして、なにか無意味な音を出しはじめたら、あなたはすぐさま『しかし、もしご都合が悪ければ、別の時刻に別の場所でお会いすることにしてもかまいません』といわなければならぬ。

すると、相手は『いいえ』とはいわずに大喜びで『はい』と答え、かれに都合のよい最初の提案に飛びついてくるのである」

「なにか無意味な音を出しはじめたら」というのはじつに笑えるが、たしかにはつきり断りにくいときに、[□]X 的にああだこうだ言って、焦点の定まらない話になることがある。日

本人でさえも、相手が何を言いたいのかわからないと感じたりするものだ。ましてや外国人からしたら、まったく意味不明に違いない。そんな経験を繰り返すことで、無意味な音を発し始めたなら何とか断ろうとしているんだと判断して、別の提案をするという対処法を学んだのだろう。

ア そうした日本のコミュニケーションの特質が、国際関係の場で誤解を生むことになる。
イ 日本のコミュニケーションにどっぷり浸かって暮らしている私たちには意識しにくいことも、異文化から来た者の目には非常に鮮明に映るものだ。

ウ このように、明確に言語化せずに察し合うといったコミュニケーションを日常的に用いている私たち日本人は、言いにくいことははっきり言わなくても、微妙な言い方で相手が察してくれるものと期待している。

エ そうした人々の驚きや発見は、鏡のように私たち日本人のコミュニケーションの特徴を映し出してくれる。

典型的な事例は、当時難航していた日米繊維交渉において、佐藤栄作首相とニクソン大統領の間に生じた深刻なコミュニケーション・ギャップである。①

佐藤は、ニクソン大統領と自分は親しい間柄だから、今回の交渉は「話し合い三分、腹芸七分」になるだろうと語った。そして、ニクソンとの会談において、自分の思っていることをちゃんと伝えたつもりでいた。

ニクソンは、佐藤がアメリカの立場に理解を示したため、それはアメリカの主張を受け入れ、近いうちに輸出割当量を申し出てくるものと受けとめた。②

いくら待っても Y 的に何の動きも示さない日本に、期待を裏切られたニクソンは怒りを露わにし、思いがけず日本に対する不信感を招き対立的な構図になってしまったことを知った佐藤も大いに慌てた。

ニクソンにしてみれば、自分の言い分に十分理解を示したのだから、佐藤はこちらの言い分を受け入れたと思ったのであり、それはアメリカ的コミュニケーションの文脈からすれば当然の判断だった。

B、日本のコミュニケーションにおいては、どんなに意見の開きが大きく、とても受け入れるわけにはいかないといった場合でも、とりあえずは友好的な雰囲気（ふんいき）を壊さないように、相手の立場に対して理解を示すのが礼儀（れいぎ）となっている。理解を示したからといって、それに従うというわけではない。③

一方、佐藤にしてみれば、こちらがアメリカの言い分に対して十分理解を示したのだから、アメリカ側もこちらの立場を理解し、尊重してくれるはずだと考えたのだろう。話し合いの場は友好的な雰囲気に終始したので、アメリカ側もこちらが困るような要求をしてくることはない。そう踏んだに違いない。

このような言葉の背後にあるコミュニケーション様式についての前提が相互に異なっているため、思いがけないスレ違いが生じるのである。④

国際的な外交の場で、腹芸が通じると期待するのは、甘すぎると言わざるを得ない。

それは論外としても、対立的な雰囲気になるのを避けるべく、こちらの主張をストレートにぶつけるようなことはせずに曖昧な言い方で、ほのめかし、相手側の主張にも極力理解を示すというのは、日本人の感覚としては当然の配慮（はいりよ）と言える。だが、国際的な場では、このような態度は誤解を招きかねない。⑤

意見の違いが際立たないように、何ごととも曖昧な言い方をして、良好な雰囲気を維持することだけを強く意識する。良好な雰囲気の場合が形成されれば、お互いに相手が困るであろう要求を突きつけるようなことはできなくなる。これが日本のコミュニケーションの基底部分に根づいている意識と言つてよいだろう。

政治家の答弁などを聞いていると、いざというときに責任を問われないように、わざと曖昧な言い方をして逃げ道を残しているようで、ずるくて汚（きた）らしい印象をもつ人が多いだろう。それはその通りかもしれない。

だが、そもそも日本においては、ごく日常的なコミュニケーションにおいても、曖昧な表現を心がける習慣がある。それは、自分の責任を問われないようにするためというよりも、良好な雰囲気を保つためである。このような日本のコミュニケーションは、国際的な場では当然のことながら通用しない。

欧米社会と日本社会では、コミュニケーションが担わされている役割が違うのだ。

欧米社会においては、コミュニケーションは自分の意見や思いを相手にできるだけ正確に伝えるための手段であり、はっきりと言葉で伝えることで説得しようとする。自分の意見や思いをストレートに押し出す。それがコミュニケーションの役割だ。したがって、(a) 意見を闘（たたか）わせるダイアログが盛んに行われる。

これに対して、日本社会においては、コミュニケーションは良好な関係を保つための手段であり、自分の意見や思いを正確にわかってもらおうという意思は乏（た）しい。説得しようとするわけでもない。お互いの対立点をぼかして、「何となくいい感じ」の雰囲気を醸（か）し出そうと努力する。ゆえに、あえて自分の意見や思いをはっきり伝えることは避けて、曖昧な表現に終始する。

異文化間コミュニケーション研究の権威であり、日米のコミュニケーションを比較する調査研究を行ったバーンランドは、両文化におけるコミュニケーション観の違いについて、つぎのように指摘している。

要するにアメリカ人にとって、意見が衝突するのは当然のことと見なされている。そこで、相手を説得し自分の意見を通すのがコミュニケーションの最も重要な役割となる。そこでの中心は自己主張である。

一方、日本社会には、意見の対立は何としても避けなければならないといった考えが根強い。それゆえに自己主張は極力避けられる。自己主張でなく、お互いの気持ちを結びつけるのがコ

問七

二重傍線部Ⅰ「ほのめかし」、Ⅱ「下策」の本文中の意味として、最もふさわしいものを次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

Ⅰ「ほのめかし」

- ア 物事の本質をうやむやにすること イ これ以上ないくらい褒めること
ウ いつまでも諦めないこと エ 自慢げに見せつけること
オ それとなく言葉や態度に表すこと

Ⅱ「下策」

- ア くだらない政策 イ 不可能な方策 ウ 想定外の失策
エ 見たこともない奇策 オ 極めて下手な策略

問八

傍線部3「このような態度」とありますが、どのような態度ですか。最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 良好な雰囲気を持続するために相手の意見を決して否定せず、できる限り相手の要望を叶えようと努力する態度。
イ 自分の意思の伝達よりも、相手の出方を窺い、相手が本当に納得しているかを細かく確認しながら交渉をすすめる態度。
ウ 対立的な雰囲気になるのを避けるために相手の意見にもある程度の理解を示し、こちらの意見も直接主張しない態度。
エ 後から相手を不快にさせないように、自分の意見や思いをできる限り正確にストリートに押し出していく態度。
オ お互いに相手が困らないように無理な要求はせず、相手側の意見を尊重することを当たり前とする態度。

問九

傍線部4「欧米社会と日本社会では、コミュニケーションが担わされている役割が違うのだ」とありますが、次の文のうち日本的コミュニケーション様式にあたるものには1、アメリカ的コミュニケーション様式にあたるものには2をそれぞれ数字で答えなさい。

- ア 何人かで昼食に何を食べるか決めるとき、自分の食べたい物をしっかりと主張する。
イ 電話相手の困っている声色を聞いて「あとで折り返しお電話します。」と提案をする。
ウ 休日に友人と出かける計画をしている時、友人の出方を確かめながら計画をたてていく。
エ 仕事中の会話でもプライベートな会話でも、誤解が生じないように自分の意見をしっかりと言う。

問十

空欄 (a) にあてはまる語を本文中から漢字二字で抜き出さない。

問十一

空欄 (b) に入る語として最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 発展 イ 主張 ウ 衝突 エ 調和 オ 指摘

問十二

本文の内容と合致するものは1、合致しないものは2と答えなさい。ただし、すべて同じ数字を用いてはいけません。

- ア 日本では相手と対立することを避けるために自己主張をしないのが美德とされているが、実際には相手に言葉以外で自分の主張を訴えることが多くある。
イ ニクソン大統領と佐藤首相はもとより親しい間柄だったからこそすれ違いが起ったのであり、初対面の人同士の場合は本心を隠さず伝えなければならぬ。
ウ 日本人が曖昧な言い方をするのは自己主張をするのが恥ずかしいからではなく、「和」の雰囲気を醸し出すことを優先して考えているからである。
エ 日本人と比べて欧米人が自己主張をし、説得力のある議論が出来るのは、もともとの文化の違いが大きく影響を及ぼしている。

[illegible]